

18歳を市民に 高生研第32回全国フォーラム

公開講座①

5/16 13:00~16:00

『間違っても良い、変わりたいと思えたなら』

一色 直久

教師4年目のレポートです。とあるきっかけからカッとなり、クラスメイトにナイフを向けてしまった生徒をめぐっての実践とその後について、報告していただきます。指導の中で、一色さんに泣きながら向けられた「俺って変われますか？」の言葉。その後も続く、ちょっとしたことで起こる、彼とクラスとのトラブル。孤立する彼とクラスとの間で悩む一色さんの様子がとてもリアルに伝わってきます。

自分が担任だったらその時どうするだろう…と、思わず考え込んでしまうエピソードばかり。異質な他者への眼差しがどんどん冷たくなっていくこの社会の中で、互いの違いを温かく受け止め合える集団をどう作っていくのか、じっくり探っていけたらと思います。この年度の節目にみんなが集まり、次年度元気に子どもたちと関わるためのパワーを、分かち合いましょう。

5月16・17日

会場：成城大学932教室
+オンライン

参加費：無料

公開講座②

5/17 10:00~11:30

「『わたし』を束ねないで
一教師・生徒の声にならない
叫びが、教育を繋ぎとめる
『舞台』の力になるー」

河上 馨

特別支援学校での特別活動やHR

実践、教科実践にまたがるダイナミックな生活指導実践です。この発題がわたしたちに問いかけるのは、この実践が示唆する横断的で教育的な意味を、容易に束ねることなく、注意深く抽出することはできるのかという集団的な課題です。例えば、声にならない声を聴く課題は、普通学校においても特別支援学校においても、生活指導に通底する実践課題です。

本基調は、声を聴くこと自体が難しい特別支援学校において、声にならない声を聴く課題に向き合う苦悩と、その教育的な意義を発題します。この意味を汲み取る際、わたしたちが誤解してならないのは、この発題が強調するもう一つの主語です。それは生徒だけでなく、教師の声にならない声（叫び）が同時に、同等に、聴き取られる課題として発題されているからです。実践記録を通じて教師の声に耳を傾け続ける高生研運動（わたしたち）に向けられています。

主催：全国高校生活指導研究協議会

参加申し込みはホームページから
<https://kouseiken.jp/>

